

令和6年4月18日

(報道発表資料)

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
〔TEL (075)841-0096〕

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和6年度春期
シリーズ二条離宮の時代

二条離宮の大広間 ～〈大広間〉一の間～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、春期原画公開「二条離宮の大広間 ～〈大広間〉一の間～」の開催について詳細が決まりました。今回は、大正天皇の皇太子時代に座したであろう〈大広間〉一の間を飾った障壁画を公開します。

是非、この機会に二条城へお越しくください。

1 会期

令和6年4月25日（木）～6月23日（日）〔60日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

(1) 〈大広間〉一の間障壁画《松竹錦鶏図（しょうちくきんけいず）》（障壁画面数：24面）

《花卉図（かきず）》（障壁画面数：4面）

《水仙図（すいせんず）》（障壁画面数：6面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

6 お問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地〕

〔TEL：(075)841-0096 FAX：(075)802-6181〕

二条離宮の大広間 ～ 〈大広間〉 一の間 障壁画 ～

幕末、二条城は徳川慶喜(1837-1913)による大政奉還の発表の場所になるなど激動の時代を経験し、明治17年(1884)に、皇室の別邸である二条離宮になります。同26年から27年にかけて、京都御所の北にある桂宮家の御殿(桂宮御殿)の主要部が、空き地となっていた本丸に移築されて本丸御殿になると、二条離宮には本丸御殿と二の丸御殿の二つの御殿が整います。本丸御殿は皇族の宿泊所として使われ、二の丸御殿は、行啓の際に皇太子らが拝観するだけでなく、時には京都在住の名士らとの拝謁の場所や外国から訪れた貴賓きびんの休憩所としても用いられました。〈大広間〉は、嘉仁皇太子よしひとこうたいし(後の大正天皇)への拝謁の場となったことがあり、一の間に皇太子が座したと考えられます。

江戸時代(1603-1867)、〈大広間〉は、徳川将軍と公式に対面する儀礼の場であり、将軍の権威を誇示する最も格式の高い場所でした。〈大広間〉一の間 障壁画は、狩野探幽かのうたんゆう(1602-74)によって描かれたもので、ぐると部屋を取り囲むようにデザインされた松には、徳川将軍家の永遠の繁栄への願いが込められていると考えられ、また、松に添えられた錦鶏きんけい鳥は権力者への贈答品とされた珍しいものでした。松は、将軍の背後となる大床おおどこで、上段に座する将軍の頭上に傘を掛けるよう松を屈曲させ、大床の左右にあたる東面と西面では、将軍に向かって枝を傾斜させて枝葉を伸ばします。この構図は、中央に着座した将軍の威光を、見るものに強烈に印象づけるものでした。

ところで、明治30年(1897)頃より、損傷の激しい廊下の天井や長押上の障壁画を中心に新たに描き直され、交換されました。これにより、寛永3年(1626)に描かれた障壁画と明治時代に描かれた廊下の障壁画が、二の丸御殿の中で共存することになりました。嘉仁皇太子は、廊下を歩きつつ明治時代の新しい息吹を感じ、いまだ江戸時代の雰囲気が残る〈大広間〉一の間に入室し、いわば新旧の融合を感じたことでしょう。



〈大広間〉 《松竹錦鶏図》 (部分)